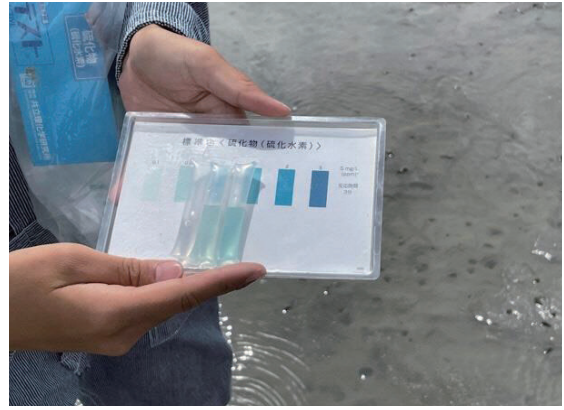


<p>【活動名】 曾根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動</p>
<p>【団体名】 NPO 法人自然環境定量評価研究会</p>
<p>【団体概要】</p> <p>① 設立目的:生物の自然環境を定量的に評価し自然環境の保全と創造活動を行う。 ② 設立年月日:平成11年3月20日 ③ 会員数:15人</p>
<p>【活動実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾根干潟における貴重種の特定と保護・保全活動(平成24～令和3年) ・みなとや海辺の親しみ創出事業:曾根干潟の生きもの観察会(平成28、29年) ・うみたび体験事業:曾根干潟の生きものに会いに行こう(平成30年、令和元年)
<p>【活動内容】</p> <p>① 活動目的 本活動は、曾根干潟に生存する絶滅危惧種や貴重種に着目して、それらの生物を保護・保全するための方法を究明することを目的とする。</p> <p>② 活動内容 (1) 実施月日:令和3年5月23日～令和4年3月12日 (2) 実施場所:北九州市小倉南区曾根新田地先 曾根干潟 (3) 参加人数:現地調査9月18日:18人、9月19日:15人 (4) 活動内容:大野川の河口付近に形成されているヨシ原で目視調査を行うとともに、底質の硫化水素やCOD、粒度組成等を測定し、カブトガニ幼生の生息個体数を調査した。</p> <p>③ 活動成果 (1) 大野川河口ヨシ原における目視調査により確認された種は全17種(3門3綱5目8科)である。このうち、環境省および福岡県のレッドリスト等に記載された重要な種は貝類のオカミミガイ、カニ類のシオマネキ等12種(貝類8種、カニ類3種、魚類1種)であり、全確認種の70%以上を占めた。また、定量調査の4測点で確認された底生生物は、5門5綱10目18科27種であり、そのうち重要種は、貝類のウミニナ、イボウミニナ、ヘナタリ、ユウシオガイ、テリザクラ、ヤドカリ類のテナガツノヤドカリの6種であった。</p> <p>(2) 発見されたカブトガニ幼生の個体数は、北干潟では16個体、南干潟では117個体であった。昨年は北干潟で全く幼生が確認されなかったが、今年は2年ぶりに北干潟で幼生が確認された。多くの幼生が確認された地点は南干潟の貫川河口から南干潟中央付近(P14～P18)の間である。この間で全個体数の8割近くの個体が確認された。また、以前と比べると生息域がやや沖に移動した様相である。</p> <p>(3) 底質の溶存態硫化水素に関しては、北干潟の陸から約500m沖の2測点(P7、P11)で0.23と0.17mg/Lと若干高い値を示した。その要因は不明である。それ以外は0.1mg/L未満と検知できないほど低い値であった。含泥率やCOD、クロロフィルa等の底質に関して特に大きな変化はなかったが、硫化物は4測点すべてで増加傾向である。</p>
<p>【今後の活動予定・団体のPR】 今後は、干潟の観察会等による環境教育の効果をアンケート調査で明らかにしたい。</p>
<p>【連絡先・ホームページアドレス・SNS】 ホームページアドレス:http://teiryoken.jp</p>



地中温度変動調査



硫化水素調査（比色定量）



底生生物コドラート調査



カブトガニ（絶滅危惧Ⅰ類）幼生の計測



カブトガニ幼生と巻貝類



イボウミニナ（絶滅危惧Ⅱ類）



シオマネキ（絶滅危惧Ⅱ類）



トビハゼ（準絶滅危惧）